

## 平成30年度 第1回小田原市社会教育委員会会議概要

- 1 日 時：平成30年4月19日（木） 14：00～16：00
- 2 会 場：小田原市生涯学習センターけやき 第2会議室
- 3 委 員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、角田委員、柏木委員、栗畑委員、齊藤委員、  
瀬口委員、深野委員、益田委員
- 4 職 員：安藤文化部長、石川文化部副部長、遠藤文化部副部長、大島文化部管理監、北  
村子ども青少年部長、中津川子ども青少年部副部長、樋口生涯学習課長、鈴木  
文化財課長、古矢図書館長、尾沢スポーツ課長、吉野青少年課長  
(事務局)  
湯浅生涯学習課副課長、飯田生涯学習係長、石井生涯学習係長、相澤主査
- 5 傍聴者：なし

### 6 概 要

#### 1. 文化部長挨拶

安藤文化部長が挨拶をした。

#### 2. 職員紹介

資料1に沿って、順次自己紹介をした。

#### 3. 報告事項

##### (1) 社会教育事業の結果及び予定について（平成30年2月～平成30年8月）

資料2に沿って、順次各所管の社会教育事業の結果と予定について報告した。

【有賀委員】 生涯学習課の事業で、2月25日及び3月25日の「こども映画会と金次郎のおはなし」の結果を見ると、参加者がゼロだが、映画上映はされなかったということか。

【生涯学習課副課長】 参加者なしのため、上映していない。

【有賀委員】 毎月実施している映画会であると思うが、定員が60名ということなので、できればもっと参加してもらえればと思う。

【柏木委員】 生涯学習課が今年度本格的に進めるというおだわら市民学校について、財源は市費だけか。国庫等があるのか。

【生涯学習課長】 こちらの財源は2種類ある。一つ目は、受講者からの受講料、二つ目は地方創生推進交付金を財源に充てる。

#### 4. 協議事項

##### (1) 附属機関への委員の推薦について

資料3に沿って、明るい選挙推進協議会委員の推薦について、生涯学習課長が説明をした。

【木村議長】 明るい選挙推進協議会委員について、まずは希望者はいるか。  
(希望者なし)

【木村議長】 いないようなので、昨年度に引き続き、深野委員にお願いをする。

##### (2) 社会教育委員会議提言書案について

資料4-1及び4-2に沿って、生涯学習課長が説明をした。

【有賀委員】 前回及び前々回の会議を欠席し、申し訳ない。自分は今までこの会議の中で、放課後子ども教室のコーディネーターとして、その活動について資料提供、情報提供をしてきた。本日はコミュニティ・スクール及び放課後子ども教室の設置スケジュールについての資料をお持ちした。コミュニティ・スクールと放課後子ども教室は、小田原市の事業として同時に進められているものである。放課後子ども教室も、コミュニティ・スクールと同様に平成31年度までに全ての小学校に導入される予定となっている。できれば、提言書の中で、子ども教室についても触れてもらえればと思う。具体的には、1ページ目の中ほど「学校の現状」の最後の部分、コミュニティ・スクールについての記載の後に、「また、放課後の安心安全な子どもたちの居場所として、現在市内小学校11校で放課後子ども教室を開設しており、コミュニティ・スクール同様、全校設置を目指している」という文章を付け足していただければと思う。

【木村議長】 文言の追加について、他の委員はいかがか。

【木村議長】 事務局にお尋ねするが、この長さの文言であれば、提言書に加えることは可能か。

【生涯学習課長】 今具体的な文言をご提示いただいた。その前の文章の文脈からしても、特に違和感はないと感じる。

【木村議長】 事務局からは、有賀委員の文言について大きな違和感はないということであったが、委員のみなさんはいかがか。

【益田委員】 逆にお聞きするが、提言書でコミュニティ・スクールについては触れているが、放課後子ども教室については触れていなかった理由はあるのか。

【生涯学習課長】 事務局としては、この会議で議論された内容を提言書としてまとめている。会議の中でその議論が出たかどうかということである。

- 【木村議長】 放課後子ども教室については、有賀委員が資料を提供してはくださったが、この場で議論はしていないと記憶している。
- 【文化部管理監】 平成29年度第1回会議で教育指導課から、本市の学校と地域の連携における、学校の現状を説明していただいた中では、どちらかという学校の先生からの視点での説明になっていた。そこをベースにして提言書を作り上げてきたので、放課後子ども教室についての視点が抜けたかと思う。
- 【木村議長】 会議の場では、放課後子ども教室についての意見交換はなかったので、提言書には盛り込んでいないということである。
- 【益田委員】 毎回有賀委員から放課後子ども教室についての資料提供があったが、私たちもそれを提言書に落とし込むという認識がなかったと改めて思った。
- 【木村議長】 それは私も申し訳なかったと思う。
- 【有賀委員】 自分も2回欠席し、申し訳なかった。
- 【笹井副議長】 今の益田委員の話に関連して、放課後行っている事業としては、放課後子ども総合プランや放課後子ども教室等いろいろある。大元の話としては、文科省が所管する、放課後どのように子どもを教育していくかという視点と、厚労省が所管する、放課後の児童へのケア、どのように保育していくかという二つの視点があり、放課後の様々な事業にはその両方が関わっている。ある意味当然なのだが、教育委員会は教育の視点で子どもを見るので、児童のケア、保育の視点はどうしても落ちてしまう。ただし、今は教育的機能と保育的機能は重なっているという議論もあり、有賀委員がおっしゃるように、両方一緒に教育的なものと考えてもよい。その意味でここに入れるのは非常によいことだと思う。
- 【益田委員】 笹井委員がおっしゃった、教育機能と保育機能についてであるが、小田原市では、保育機能は学童（放課後児童クラブ）が担っていると思う。教育的な部分を放課子ども教室でやろうとしている。そうすると放課後子ども教室についての記述が提言書に入って、学童（放課後児童クラブ）が入っていないということになると、公平ではない気がする。
- 【笹井副議長】 小田原の事情はよく知らないが、一般的に学童は純粋なケア、保育だと言われている。小田原では、学童や放課後行っている何々事業が、保育の中でも教育的に子どもを遊ばせていたり、教育的にとっても意味があり、教育と同じように位置付けてもよいのではないかということであれば、ここで入れてもよいと思う。しかし、その事業が純粋な保育であるということであれば、ここに加えるのはどうかと思う。小田原の状況がわからないが、その事業が子どもの成長や発達にプラスになっているという教育的な面を積極的に言えるのならば、ここに書いてもよいと思う。
- 【益田委員】 青少年課が学童（放課後児童クラブ）の管轄になっていると思うが。
- 【木村議長】 現在の管轄は教育委員会である。

- 【益田委員】 教育委員会管轄だとすると、放課後子ども教室だけを提言書に入れるのは余計に違和感がある。
- 【有賀委員】 自分としては、放課後子ども教室はコミュニティ・スクールと同時に始まった新たな事業であるから載せたいという思いがあった。放課後児童クラブの方は、もともとあった事業である。今後、放課後子ども教室と放課後児童クラブの一体化の話もあるので、ここでは放課後児童クラブには触れなくても違和感はないと思う。
- 【益田委員】 実際に学童（放課後児童クラブ）は学校内で行っていて、学童（放課後児童クラブ）の運営委員会は地域の人が行っている。見出しが「学校の現状」となっているのに、地域が運営委員会をやっている学童（放課後児童クラブ）がここに載らないのはいかなものかと思う。  
将来的には、放課後子ども教室と一体化していくのだろうと思っている。それはわかっているからこそ、ここで学童（放課後児童クラブ）について触れないと、放課後子ども教室だけになっていくのだなという印象を受ける。一言でも学童（放課後児童クラブ）を行っているという文言が提言書に入っているとよいのだが。
- 【深野委員】 この文章は、今まで様々な取り組みを行ってきており、さらにそこに付け加えて新しいコミュニティ・スクールという取り組みをしていくという構成になっている。そうすると学童（放課後児童クラブ）は以前から行っていた事業であるので、もっと前の部分で書いていないといけない。ここに併記すると文章の流れがおかしくなる。
- 【益田委員】 地域住民が運営しているので、現状のところ一言でも学童（放課後児童クラブ）について記述があればと思う。急に思いついたため、まとまらないのだが。
- 【生涯学習課長】 事務局としてのご提案である。「学校の現状」の最初の方の文脈は、地域との連携色が強く、放課後児童クラブは笹井副議長がおっしゃるようにケアという意味が強い。今、有賀委員から具体的な文章のご提案があったが、放課後児童クラブについてはすでに全校で実施されているということなので、例えば、「放課後児童クラブについてはすでに全校実施済みであるが、」という文言を先に加えつつ、「放課後子ども教室についても、平成31年度までの実施に向け・・・」という形で整理してはどうか。具体的な文案については事務局で整理し、正副議長にご相談させていただき、まとめたいと思う。
- 【木村議長】 事務局で作ったものを自分と笹井副議長で見て、外部に出すという形にしたいと思うので、よろしく願います。他に何かあるか。自分としては、提言書はよくまとまったと思う。皆さんが語った自分の思いというものが、このような提言書と言う形になったのであるが、それをまとめる事務局は大変だったろうと思う。

- 【深野委員】 委員の一人として、この提言書はよくまとまっていると思う。今さら付け加えることは何もない。自分の言った話もうまく入っていると感じた。
- 【木村議長】 瀬口委員いかがか。
- 【瀬口委員】 自分は思ったことを言っていたけど、このような立派な文章になってよかった。
- 【木村議長】 齊藤委員いかがか。
- 【齊藤委員】 よくまとまっていると思う。ただ、理想を掲げるのは簡単だが、次の段階である現実的な運営という話になると、非常に難しいと感じた。特に学校と地域のグラデーションの部分連携と言っているのだが、その部分を、今後誰が責任を持つのか。そこがとても大事な部分になってくる。先ほど有賀委員の発言があったように、現状として、地域の人たちがこの部分を担っているということも非常に大きいし、学校の先生が担う可能性もある。一般市民はあまりこのような文章を読まないと思うので、例えばA4一枚くらいの概要版や絵として提言書の内容がわかるものがあると、自分が今やっていることは、ここのところにあたるのだなと、わかりやすいのではないかと感じた。
- 【木村議長】 確かに、自分たちは提言書の内容についてわかるが、一般の人達たちにとっては、提言書はなかなか目につかないし、わかりにくい。図などを使うと一般市民もわかりやすい。ただこれはほとんど市民の方には出て行かない。市民から見せてくれと言われれば、事務局も出すと思うが。柏木委員いかがか。
- 【柏木委員】 三度ほどこの提言書を読んだが、違和感が無く、すっと読める。ただ、あまり綺麗に文章が出来てしまうと、行政がそれで安心してしまい、本当に書かれていることをやってくれるのだろうか、少し不安になる。
- 【有賀委員】 細かいところだが、5ページの中ほど、「場づくり」が平仮名と漢字が混在しているので統一をした方がよい。さらに、「またボランティアや……」の文章は、改行せずに続けて書いた方がよいと思う。
- 【生涯学習課長】 改行の必要があるかどうか、事務局で検討させていただく。
- 【柴畑委員】 明確で読みやすい文章になっている。こうなったらもっとよいということも随所に書かれているので、次回作り直す時に、この課題がこうなったということが見えやすくてよい。
- 【木村議長】 今後、その検証はされていくと思う。その時に、このような作り方をしていると検証しやすい。ただ、あまり綺麗にまとめてしまうと、後が大変である。成果については、バツ（出来ていないという評価）が多くなりがちである。そこが難しい。
- 【深野委員】 6ページの網掛け部分に、「大人も子どもも一緒になって自分たちの住む地域づくり、まちづくりに参加していくことが望まれる」という文章がある。以前自分は、子どもの頃から地域の様々な活動に参加していくということ

が非常に大事だという発言をした。その主旨から、ここを「その核である子どもたちの思いもくみ取り、子どもも大人と一緒に」 という文章に変えて欲しいと思うのだが、いかがか。

【木村議長】 今の深野委員の文章でも、文脈として繋がると思うので、事務局よろしくお願ひする。なお、今回が任期最後の会議であるため、今回出された修正等の内容については、議長に一任していただき、事務局と私で調整したいと思う。他に何かあるか。

【生涯学習課長】 今後の提言書の扱いについては、最終的なものを5月の教育委員会定例会で生涯学習課としてきちんと説明し、報告させていただく予定でいる。

(3) 小田原市生涯学習センター条例等の一部改正について

資料5-1及び5-2に沿って、生涯学習課長が説明をした。

(非公開)

【木村議長】 事務局から他になにかあるか。

(事務局より連絡事項)

【木村議長】 本日が任期最後の会議となった。長い間委員のみなさんにはご協力を賜り、提言書をまとめることができた。ありがとうございました。